

カガヤキ

No.45(2019.6.5 刊行)、広報委員会編集
県立図書館発行
禁複写転載©広報委員会

特集 図書修理ボランティア

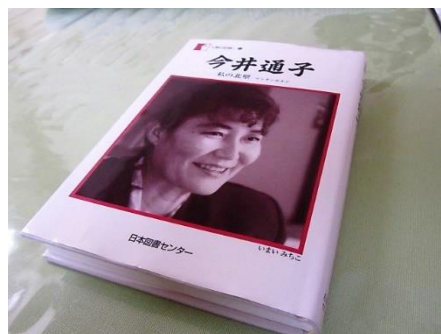
桜井 淳
(広報ボランティア)
近藤淑子
(図書修理ボランティア)
羽石康弘
(県立図書館普及課)

はじめに

県立図書館ボランティアグループの中で、県立図書館に最も貢献しているのは、どのグループなのか、そのことを決めるのは、簡単なことではない。おそらく、評価者の数ほど、答えがあるはずである。

今回は、図書修理グループに対する現場調査と「聞き取り調査」を実施した。

本の各部位の名称



天；本の上部。

平；表紙の平らな部分。

地；本の下部。

溝；開きを良くするために表紙と背のつなぎ内部にあるくぼみ。

背；本を綴じている一辺。

(桜井書庫、桜井撮影)



ちり；中身保護のために表紙が数ミリ大きくなっている部分。

効き紙；表紙内側の茶色の部分。

のど；本の綴じ目(中央に立っている紙のつなぎ目)。

遊び紙；表紙についていない遊び紙(中央に立っている紙)。

はなざれ；中身の天地部についている飾り。

小口；背以外の本文三辺。

前口；小口のうち天地以外の手前部。

(桜井書庫、桜井撮影)

図書損傷の原因

県立図書館で、本を借りて気になることは、数は決して多くはないものの、本文ページに、鉛筆やボールペンによる書き込み、さらに、重要部分に線を引いてある物もある。返却する際、付箋をつけて、その旨を説明している。自身に、関係ないにもかかわらず、疑惑を投げかけられ、不快な思いをしたこともある。利用者が、安心して借りられるようにするには、県立図書館が、どのような対策を施したら良いのか、考えたこともある。

図書が損傷する原因は、

- ・地震による書架からの落下、
- ・受付・返却・配架などの際の不手際による偶発的落下、
- ・利用者の不手際による偶発的落下、
- ・利用者の故意による破損、

などである。

ボランティアと専門業者の分担境界

書籍の種類は、多く、新書からごく普通の啓蒙書や学術書、特別な大きさと内容の数少ない貴重な書籍から特に高価な芸術書まで、実に、広範囲に及ぶ。

図書修理ボランティアが、対応できる物は、前者であり、後者については、高度な技術と施設を備えた専門業者でなければ対応できない。両者がうまく棲み分けることである。

図書館では、その振り分けを実施しており、修理を必要とする書籍の90%は、図書修理ボランティアが修理し、その各

年度の修理冊数は、多い(たとえば、H29年度498冊、H30年度340冊)。労賃を除外しても、年間100-500万円の価値があると推定される。

図書修理の道具一式

広報ボランティアは、これまで、県立図書館で、毎年、5月5日に開催される「子ども読書フェスティバル」の図書修理コーナーの見学・調査を実施してきた。

webで、用語「図書修理」により検索すれば、多くの記事が閲覧できることも確認済みである。専門業者でなければ、図書修理には、特別な道具が利用されているわけではなく、どこの家庭でもあるようなごく普通の道具である。

日常的に利用している修理道具は、

- ・糊(でんぷん粉、資料への影響小・濃度調整容易・汎用性あり)、
- ・小筆、
- ・水筆ペン、
- ・へら(先・背・全体)、
- ・ものさし、
- ・ピンセット、
- ・はさみ、
- ・カッターナイフ、
- ・修理和紙、
- ・捨て紙、
- ・クッキングシート(破損部糊づけ後、上に被せ、へらで、ソフトに押す)、
- ・さらし、
- ・板(修理した本の上下に置いてその上に乗せた重石の圧力が均等になるようにする)、
- ・重石、

- ・水小口、
 - ・雑布、
- などである。

図書修理ボランティアができる事項と知識と技能は専門業者にはとても及ばない。主婦の日常の知識とノウハウの応用で対応できる範囲のことだけである(具体的には「しわ伸ばし」「糊づけ」「切り貼り加工」など)。

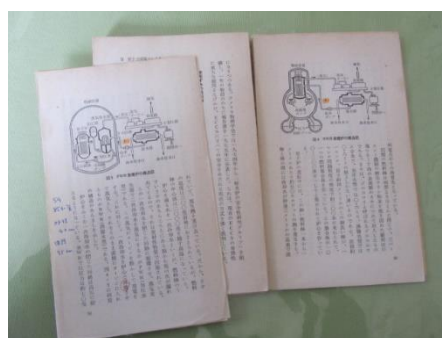


表紙が剥離している(桜井書庫、桜井撮影)。

代表的な図書修理部位

主な修理部位は、

- ・各ページに生じたしわ、
 - ・本文ページの破れ部分、
 - ・本文ページの剥離、
 - ・表紙・背表紙・遊び紙などの部位ないし全面的取り換え、
- などである。



ページが剥離している(桜井書庫、桜井撮影)。



背表紙がなくなっている(桜井書庫、桜井撮影)。

図書修理グループへの聞き取り調査

グループは7人(経験年数10-25年で、粒がそろっている)。毎週、金曜日の10:00から作業(今日(2019.5.10)は4人)。修理数のいちばん多い分野は、子供の絵本(全体の約30%)、特に、立体的部位が多く、しかも、可動部のある絵本。どの本でも、1ページ欠落している場合には、他の図書館の本のコピーを取り、それを組み入れる。結果として、良い修理と良くない修理があり、壊れ方など経験から学ぶことにしている。糊の耐用年数など、良く分からないこともある。市立図書館と県立図書館では、修理や保存の考え方が異なる。人材養成のため、積極的に、講習会を開催している。素人が手を出してはいけない本もある。ポ

ランティアの誇りは修理の完全性の達成。



ボランティア室で作業中の図書修理
ボランティアグループ(桜井撮影)



修理用具1 上端; 圧縮板、左端; 和紙、他;
ハサミ、カッターナイフ、ハケ、糊(桜井撮影)



修理用具2 本の矯正のための圧縮器(桜井撮影)

まとめ(感想、評価)

すべてに当てはまることであるが、事前に、webで検索し、調査できることと、そうできないことがある。

図書修理ボランティアへの聞き取り調査から、「子供の絵本の立体・可動部の損傷が多い」「市立図書館と県立図書館では修理・保存に対して考え方に相違がある」など、いくつかの新たな情報を得ることができた。

図書修理ボランティアは、年齢・知識・経験・技能・ノウハウがそろっており、礼儀・倫理を備え、チームワークが良いと感じた。「素人が手を出してはならない本もある」など、できることとできないことの境界を良く認識している。講習会開催など、人材養成も積極的に実施している。あらゆる意味で、大変、良い、ボランティアグループである。

編集後記

広報グループでは、ボランティアの相互理解と相互協力を図るため、「ボランティアグループへの現場訪問シリーズ」を進めています。

比較的やりやすいのは、「三の丸書庫グループ」と「図書修理グループ」でした。

優先順位からすれば、次は、「資料配架グループ」ですが、事前調査から分かったことは、配架作業の90%は、県立図書館職員が担っており、ボランティアの割合は、10%ということです。

その原因は、夜間返却図書などを含め、開館直後までに、それらの返却図書を配架しておかなければならないため、職員が担わざるを得ない状況にあるためです。ボランティアが90%くらい担える方法は、ないものか、考察中です。

桜井 淳

【補足】桜井淳編集担当通信紙

CY	No	HP 掲載	備考
H27	25	○	再発行優先版 H27 年度年次報告
H27	26	○	再発行優先版 H27 年度全体会 合報告
H27	27	○	モデル版 ボランティア論
H27	28		テスト版
H27	29		テスト版
H28	30	○	モデル版 ボランティア論
H28	31	○	モデル版 投稿規定作成 編集裁量範囲 掲載までの経緯
H28	32	作成中	ボランティア詳細データ収集 中 特性分析 (多変数解析含む)
H28	33	○	モデル版 通信紙位置づけ
H28	34	手続中	モデル版 図書館論 ボランティア論
H29	35		テスト版
H29	36	手続中	モデル版 ボランティア論
H29	37	手続中	モデル版 ボランティア論
H29	38	○	モデル版 火災避難訓練実 施報告

H30	39	○	モデル版 H29 年度年次報告
H30	40	○	モデル版 県立図書館現状 ボランティア論 未来図書館論
H30	41	○	モデル版 H30 年度ボラン ティア研修会実 施報告
H30	42	○	モデル版 上條哲追悼
H31	43	○	モデル版 H30 年度年次報告
R01	44	○	モデル版 ボランティア現 場訪問 1
R01	45	○	モデル版 ボランティア現 場訪問 2
R01	46	実施中	モデル版 新館長へのイン タビュー
R01	47	企画 中	モデル版 ボランティア論

注 1) 「再発行優先版」とは内容より再発行優先。

注 2) 「モデル版」とは標準化できる良い内容。

注 3) 「テスト版」とは意見を聞くための試験版。

注 4) 社会科学的手法による分析実施中。

注 5) 二大テーマは「各ボランティアグループ活動年次報告」と「ボランティア論」。